

令和3年5月定例会 一般質問（概要）

令和3年6月2日（水）3番
西林 克敏 議員

（西林克敏議員）

大阪維新の会府議会議員団、西林です。
早速、質問へと入らせて頂きたいと思います。



1. 新型コロナウイルス感染防止にかかる新たな認証制度について

① 飲食店舗の見回り調査の意義と実施状況について

（西林克敏議員）

4月5日からのまん延防止等重点措置期間と4月25日からの緊急事態措置期間において、府・市町村職員と調査員が二人一組、最大300組で調査する体制で「見回り隊」による昼間の感染防止対策の調査が実施されていますが、見回り調査の意義と実施状況について、危機管理監にお伺いいたします。

（危機管理監答弁）

- 見回り調査については、まん延防止等重点措置や緊急事態措置期間において、特措法に基づく感染防止対策の実施状況の確認を行うとともに指導、助言を行うことで感染に強い飲食店づくりを目指すことを意義としている。
- これまでに、府職員、市町村職員、民間事業者により、飲食店営業許可を受けている大阪府内の全飲食店約10万店舗のうち20時以降通常開店する店舗を除く対象店舗約7万5千店舗を既に訪問しており、店頭販売や店舗がないものなど約1万6千店舗と臨時休業等約3万7千店舗を除く約2万2千店舗について、調査を行った。
- 調査は、アクリル板等、消毒液、CO2センサーなどの目視による設備確認のみならず、換気やマスク会食の徹底などを店長に確認し、加えて対策ができていない場合は指導や助言を行った。

(西林克敏議員)

今回の見守り隊、多くの人材、時間、財源を使っただけの実施でした。様々な意見が出ているところですが、実際に府下の店舗に足を運び、話をし、見て聞いてきた生のデータが蓄積されていることと思います。今回の見守り隊の成果である、このデータの蓄積を今後の政策につなげることに大きな意義があると思います。

②感染防止にかかる新たな認証制度について

(西林克敏議員)

そこで次に、提案されました「飲食店への第三者認証制度の導入」についてお聞きいたします。

パネル① 感染防止宣言ステッカー (サンプル)



感染防止宣言ステッカーについては、これまで多くの飲食店において導入され、各店舗において感染防止対策が実施されてきました。

しかしながら、ステッカーの導入店に行ってみると、自己申告によるものであることから営業時間短縮協力金の受給要件を満たすためだけに掲示しているのか、十分な感染防止対策がとられていない店舗も残念ながら見受けられました。

今後は、感染防止対策がしっかりとられている店舗については、実際に対策状況を確認した上で新たな証を交付し、安心して飲食ができる店舗を選んでいただけるよう、これまでのステッカーの制度を見直す時期にきているのではないかと考えていました。

また、国の基本的対処方針の中でも、国が都道府県が行う第三者認証制度の普及を促し、その方針に基づき都道府県において制度の確実な運用を図ることが示され、今般、大阪府においても新たな第三者認証制度の導入を進めていくことが示されました。

そこで、新たな認証制度の導入にあたっては、全庁的にもマンパワーを活用して行った先ほどの見回り調査の成果も生かす仕組みとし、審査も迅速なものとしていくべきと考えるが、お答えを頂きたいと思います。

また、導入店舗へのインセンティブや認証後の実効性確保をどのように実施していくのか、併せてお聞きいたします。

（危機管理監答弁）

- 新型コロナウイルス感染症が長期化する中、感染症に強い強靱な社会・経済の形成を図っていくためにも、飲食店等における感染防止対策のさらなる促進や府民が安心して飲食店等を利用できる環境整備が必要。

- 現在、感染防止宣言ステッカーに加え、国が示す認証基準を踏まえた新たな認証制度の導入を検討しており、事業者からの申請に基づく現地確認による審査を原則とし、認証を行うことを考えている。なお、見回り隊が一度実地確認をした店舗については、主要項目について目視、聞き取り等での調査を終えているため、その成果を活用した申請とするなど、迅速な審査にもつながる認証制度を構築していきたい。
- 基準を満たす店舗には、認証店であることを示す新たなステッカーを導入し、府のホームページ等で公表することをはじめ、今後のコロナ対策などを踏まえ、飲食店の方々にとってメリットとなるようなインセンティブを関係部局とも連携して検討していく。
- また、認証後については、取組内容の店内掲示を行っていただくとともに、適宜、対策の実施状況を確認し、場合によっては認証の取り消しも行うなど、実効性のある制度を検討していく。

(西林克敏議員)

お答えを頂きました中で、この認定制度を実施していくうえで重要になってくるのが、申請者の方にとってメリットとなるようなインセンティブを構築できるのかどうかだと考えます。

今、どのような考えで制度構築を進めて頂いているのか具体的にあればお答えください。

(危機管理監答弁)

- この制度について、より多くの事業者の皆様が認証店舗となっていくためには、インセンティブは重要であると認識。
- まずは、認証店舗について、府民の皆様が安心して利用していただけるよう、府のホームページ等で公表することで、事業者を支援していく。
- 引き続き、今後の状況に応じたコロナ対策や措置なども踏まえ、飲食店の方々にとってメリットとなるようなインセンティブについて、関係部局とも連携し、制度構築を図っていく。

(西林克敏議員)

制度の詳細はこれからになるようですが、これまでの飲食店の皆さんの状況を踏まえて要望をさせていただきます。

まずは、今後のコロナ感染状況はどのようになるのかは簡単に予想できませんが、これまでの度重なる行政からの要請により、厳しい経営状況となっている飲食店の皆さんが、申請・認定が事業者の負担にならないようお願いをいたします。

申請された方の認定が時を逸することなくスピーディーに行われるようお願いを致します。また、わが会派から協力金の支給について指摘や改善を求めましたが、

同様に申請者への丁寧な対応や審査状況の見える化にも取り組んでいただきますようお願いを致します。

また、このゴールドステッカーを取得された飲食店向けに『少人数利用飲食店応援キャンペーン』のような制度を実施をするなどし、支援とともに、より感染症対策への取り組みが進むように方策を考えて頂きますようお願いを致します。

また、認証後も現地確認の実施で、違反については認証の取り消しも速やかに対応をお願いいたします。

この認証制度が利用者にとって安心して店舗を訪れることができる、また、店舗にとっても認証されることにメリットのある実効性のある制度にして頂きます様に要望を致します。



2. 百舌鳥・古市古墳群

①百舌鳥・古市古墳群をはじめとする南大阪への周遊促進について

(西林克敏議員)

これまでの大阪を訪れる観光客多くはUSJや大阪城、梅田・なんばなどの繁華街のある大阪市内に集中していたと思われます。

言うまでもなく、大阪には多くの魅力があふれています。私の地元堺市のある泉州や、南河内といった南大阪には、百舌鳥・古市古墳群をはじめ、歴史、文化や自然などの魅力がふんだんにあり、これらを多くの方に知っていただくことにより、南大阪への誘客が進むのではないかと期待しています。

百舌鳥古墳群ビジターセンター シアター映像

壁面や床面に投影する超高精細な8K空撮映像等で、百舌鳥・古市古墳群の雄大さや堺の歴史文化を体感



2

堺市においては、この3月に百舌鳥古墳群ビジターセンターを開設するとともに、4月より、さかい利晶の杜において、最新のVR技術を用いて堺の歴史や茶の湯を紹介するなど、観光誘客に向けた環境整備等を進めています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、まだまだ予断を許さない状況ですが、ポストコロナに向けて、今からしっかりと準備をしておく必要があります。

地元が様々な取組みを進めている中、大阪府として、豊富な観光資源を有する南大阪への誘客に向けて今後どのように取り組んでいくのか、府民文化部長にお伺い致します。

(府民文化部長答弁)

○ 府内各エリアには、「歴史」「自然」「食」といった都市部だけでは体験できない多様な観光資源があり、それらの魅力を多くの方々に知っていただき、府内全域への誘客につなげていくことは、大変重要であると認識している。

○ こうした認識のもと、これまでも、多言語ガイドブックを作成し、府内の観光案内所やホテル、主要駅などに配布してきた。

また、府域を泉州や南河内も含めた5つのエリアに分け、それぞれの魅力的な観光スポットをつなぐ周遊ルートを設定し、ホームページやSNSなどを通じて、積極的な情報発信を行ってきたところ。

○ さらに、今年度は、新型コロナ対策を講じながら、大阪市内などにおける集客力のある場所を発着地とした、百舌鳥・古市古墳群と南河内地域などその周辺エリアの魅力ある観光スポットをめぐる周遊バスの実証事業に取り組むこととしている。

- 今後も、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、百舌鳥・古市古墳群をはじめとする泉州や南河内地域へのさらなる誘客に向けて、地元市町村と連携しながら、しっかりと取り組んでまいります。

(西林克敏議員)

ご答弁ありがとうございました。

大阪市内等を発着とし、泉州、南河内地域をバスで周遊できる実証事業をしていただけたとのこと。例えば莫大な税を投じて完成された堺市の千利休と与謝野晶子の博物館『利晶の杜』も歴史的に深いつながりのある大阪城とつながることで深みが増します。

歴史・文化の魅力に溢れる泉州や南河内へのさらなる周遊促進については、地元市町村と連携しながら、取組みを進めて頂きますように強く要望を致します。

②百舌鳥・古市古墳群にかかる情報発信について

(西林克敏議員)

とりわけ、世界遺産となった「百舌鳥・古市古墳群」は、引き続き、地域において守り、次世代に受け継いでいくべき貴重な財産であり、その雄大さや守るべき価値を多くの方に知っていただくことは非常に重要であると考えます。

今年度は、地元の堺市・羽曳野市・藤井寺市と連携し、「百舌鳥・古市古墳群」のPR映像を制作するとお聞きしました。

4K、8Kといった高精細な映像をシティプロモーションに活用する取組は、近年、複数の自治体でも取り入れられ、誘客効果も高いと聞いており、世界的に新型コロナウイルスの影響を受ける中での情報発信の手法として、私としても大変興味を持っています。

この事業の具体的内容や周知の方法等について、府民文化部長にお聞きいたします。

(府民文化部長答弁)

- 大阪初の世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」については、新型コロナウイルスの影響もあり、来訪者数が減少している状況にあるが、その歴史的な価値や魅力を継続して発信していくことは、きわめて重要であると認識。
- そのため、これまでも地元市と、ガイドブックの作成や多言語ホームページの充実を図るとともに、オンラインでのシンポジウムを開催するなど、新型コロナの感染状況も踏まえた様々な工夫を凝らし、百舌鳥・古市古墳群の情報発信を行ってきたところ。
- 今年度は、認知度のさらなる向上を目指し、古墳群の雄大さや魅力をより分かりやすく国内外の方々に伝えられるよう、高精細で色彩豊かな映像を、言語を極力用いない、いわゆるノンバーバルで制作することとしている。
- 今後、こうした古墳群の魅力を伝える映像を、SNSをはじめ、様々な手法や機会を

活用し、広く配信するなど、地元市との連携を図りながら、引き続き、世界に誇る歴史遺産の適切な保存管理にも配慮しつつ、その魅力を積極的に発信してまいります。

3. 大阪府立大学と堺市との連携

①大阪府立大学中百舌鳥キャンパスと堺市との連携について

(西林克敏議員)

次に私の住む堺市南区、唯一の鉄道である泉北高速鉄道が南海高野線に接続する駅が中百舌鳥駅になります。地下鉄・御堂筋線への乗り継ぎもできます。

中百舌鳥駅は一般質疑でこれまでも質問させて頂いていますが、乗り継ぎが不便であり、その改善を強く求めてまいりました。永藤市長が誕生し、晴れて前向きな議論が吉村知事と行われるようになり、前回定例会で西先輩が質問された通り、利用者の方々からすれば満点ではありませんが、少し利便性の向上が図られる事となりました。この中百舌鳥駅周辺は、かつて1982年に発表された大阪府の総合計画で豊中市の千里中央、東大阪市の荒本とともに中百舌鳥は「大阪府の新都心」として位置づけられました。

数件の百貨店が名乗りをあげる出店計画があったのですが、バブル崩壊などの影響もあり頓挫して現在、マンション等が立ち並ぶ街並みが形成されています。

ここに近接して、大阪府立大学の中百舌鳥キャンパスがありますが、令和2年2月に策定した「堺グランドデザイン2040」で示した堺が目指すべき将来像に基づき、中百舌鳥エリアをイノベーション創出のリーディングエリアとして発展させ、大阪・関西全体の活性化を図っていくとしており、中百舌鳥エリアの活性化を図るうえで府立大学と堺市との連携は重要であると考えます。

また、2022年度に開学される新大学、「大阪公立大学」では、中百舌鳥キャンパスに工学部が集約されていく中で、堺市との連携がより深まり、中百舌鳥エリアの活性化に向けた期待が大きく膨らんできています。

そこで、これまでの府立大学と堺市との連携による取組の状況を伺うとともに、今後、新大学と堺市がどのように連携を進めていくのか、府民文化部長に伺います。

(府民文化部長答弁)

- 大阪府立大学においては、これまでも、堺市との包括連携協定や産学官連携協定に基づき、市内の中小企業との共同研究開発や、ものづくり後継者の育成、また、学生が地域住民と連携してボランティア活動を推進する地域貢献事業など、幅広い分野において、堺市と連携し取り組んできた。
- さらに本年2月には、新大学の開学も見据え、堺市と大阪府立大学・大阪市立大学が連携し、民間事業者や産業支援機関等が参画する「NAKAMOZUイノベーションコア創出コンソーシアム」を立ち上げ、中百舌鳥エリアの活性化を目指す取り組みをスタートさせたところ。
- 来年度開学する新大学においても、新たに備える技術インキュベーション機能や

都市シンクタンク機能を十分に発揮し、中百舌鳥エリアにおける産業競争力の強化や、地域の有する都市課題の解決などについて、堺市との連携をさらに深めてまいります。

(西林克敏議員)

ご答弁ありがとうございます。

来年度開学する新大学へは堺市でも大きな期待があります。

そんな期待からか、民間企業から大学と連携したいとのお話も、もうすでに伺っています。新大学の開学が中百舌鳥エリアの活性化は言うまでもなく、いろんな分野にいい波を生み出していけるように取り組みをお願い致します。



4. 泉北ニュータウンにおける新たなまちづくり

①泉北ニュータウンの公的賃貸住宅のリニューアルについて

(西林克敏議員)

大阪府下でニュータウンといえば千里ニュータウンと泉北ニュータウンが思い浮かぶと思います。その中で街びらき 1967 年、開発面積 1 5 5 7 ha、計画人口 1 8 万人でスタートした泉北ニュータウンについては、平成 4 年の人口約 1 6 万 5 千人をピークに残念ながら減少を続けています。

そんな中で、平成 22 年度に堺市が泉北ニュータウン再生指針を作成し、これに基づき大阪府をはじめ、堺市や関係する公的団体等とともに泉北ニュータウン再生府市

等連携協議会を設立して、泉ヶ丘駅前地域の活性化や公的賃貸住宅等の再生に向けた取組みを進めてきたところです。

再生指針策定から10年が経過したのもありますし、永藤市長の強い思いもあり、堺市は新たな指針となる「SENBOKU New Design」を本年5月に策定し、「かつてのベッドタウンから、より豊かに暮らせるまちへ」という理念を掲げ、新たな価値を創造し、多様な暮らし方が実現できるまちへの変革を目指しています。この理念を実現するための重要な要素である公的賃貸住宅についてお聞きします。

泉北ニュータウンの住宅の約半数を占める公的賃貸住宅については、これまで府営住宅の空室活用による高齢者等の交流活動拠点の整備や、府公社、URの賃貸住宅におけるDIY等のリノベーションや2戸1化などによる若年・子育て世代の居住促進が進められており、これらは先駆的な取組みで評価でき、今後も積極的に広げていってほしいと思います。

一方、府営住宅やUR賃貸住宅では、この10年間で建替えや集約事業が進められ、全体で約20haの活用地が生み出されると聞いており、私のところにも、古い住宅が撤去されて、広い活用地の姿が目の前に実際に広がってくると、地元住民や民間企業から今後の活用方法についての問合せが寄せられるなど、日に日に期待が高まっています。

活用地の土地利用の決定にあたっては、民間ディベロッパーや大学、金融機関、社会福祉法人等が参画する「泉北ニュータウンまちづくりプラットフォーム」も活用し、民間のノウハウやアイデアを積極的に取り入れ、検討を進めているとのことですが、「SENBOKU New Design」が理念とする、新たな価値を創造し、多様な暮らし方が実現できるまちへ変革するため、これらの民間の活力を積極的に導入し、活用地を最大限に活かした泉北らしい取組みが重要と考えるが、今後、どのように取り組んでいこうとしているのかお伺いします。

(住宅まちづくり部長答弁)

- 泉北ニュータウンにおける公的賃貸住宅の再生については、堺市が策定した「SENBOKU New Design」に基づき、協議会において、アフターコロナの視点も踏まえ、居住機能中心から多様な活動に挑戦できるまちへと転換することを再生計画に位置付けたところ。
- 活用地については、民間による、地元食材を利用したレストラン等、新たなライフスタイルを提案する商業施設や、泉北ニュータウンの特徴である緑道や公園に馴染む、木造低層の住まいなどをモデル的に創出することとし、これらに民間のアイデアやノウハウが十分に反映され実現できるよう、価格と内容の両面で評価する事業者選定方式や定期借地の導入、土地利用規制の緩和等を検討することとしたところ。
- この再生計画が早期に実現できるよう、今年度、協議会において、各活用地のコンセプト素案を提示し、地元調整を進めるとともに、先行する活用地については、

プラットフォームを活用して民間事業者等へのヒアリングを重ね、これを踏まえて事業スキームを検討するなど、令和5年度からの順次公募開始に向けて取組みを進めてまいります。

(西林克敏議員)

今後生み出される活用地について、令和5年度の公募に向けて取り組まれるということです。泉北NTも今は高齢化が大きく進んでいますが、世代の偏りなく泉北に若い世代の集う拠点が新たにできることを大いに期待しています。

パネル③ ライフスタイル提案型商業施設イメージ

ライフスタイル提案型商業施設イメージ



3

さきほど、「木造低層の住まい」を創出するとの答弁がありました。泉北ニュータウンは緑道や公園をはじめ緑豊かな住環境を有するだけでなく、和泉市や河内長野市など木材の産地からも近接していることから、府内産材の活用についても是非検討を進めていただきますように要望致します。

答弁いただきましたように、活用地を最大限に活かしたインパクトのある新たな街づくりが重要です。中でも最初に取り組む活用地の成功がポイントだと思います。その成功が泉北ニュータウン全体に波及し、エリア全体の価値向上につながりますので、英知を結集して当たっていただきますように強く要望を致します。

②泉北ニュータウンにおけるスマートシティ化について

(西林克敏議員)

私は、泉北ニュータウンのように、住民の人口減少・高齢化などが影響し、多くの課題を抱える大規模ニュータウンが、新しいまちに生まれ変わるには、ICTなどの先

端技術の活用によるスマートシティ化が不可欠であり様々な効果を生み出していけると考えます。

例えば、高低差の激しい地区内の移動には、ラストワンマイル自動運転やオンデマンド交通などのモビリティ技術、高齢化が進む地区の住民が健康で暮らし続けるための ICT を活用した介護予防などのヘルスケア技術、新しい働き方には地区内で完結するリモートワークの促進といったように、これまでとは違う新たな視点や技術による取り組みが必要です。

堺市では、泉北ニュータウン地域の新たな指針となる「SENBOKU New Design」の策定に併せて、泉北ニュータウンをスマートシティの重点地域に位置付けた「堺スマートシティ戦略」を策定されました。

堺市にはこの戦略の元、泉北ニュータウンのスマートシティ化による新たなまちづくりを、着実に進めて頂きたいと思いますが、この取り組みが、府内に数多く存在するニュータウンのスマートシティ化の「モデル」になると考えられることから、大阪府のスマートシティ戦略部との連携も非常に重要になってくると思います。

そこで、泉北ニュータウンのスマートシティ化の必要性と、これまでの堺市と大阪府の連携の状況、今後の取り組みについてお伺いを致します。

(スマートシティ戦略部長答弁)

- わが国を代表するニュータウンである泉北ニュータウンは、まちびらきから50年以上が経過し、人口減少・高齢化の急速な進行により、多くの生活課題を抱えている。
- 一方で、住民・事業者・行政一体で、まち全体のリニューアルへの機運が高まっており、公的賃貸住宅再生や泉ヶ丘駅周辺再整備などのハード整備の動きにあわせて、デジタル技術によるソフト面の革新を進めることで、スマートシティのモデルとして全国の先導役を果たすことができるものと認識。
- 泉北ニュータウンのスマートシティ化をめざしている堺市と、その可能性を共有するため、堺市の担当部局とともに、私自身、現地を視察し、今後の取り組みについて検討させていただいた。
- 昨年秋には、東京で泉北ニュータウンのまちづくりをアピールする場を設けるなど、泉北ニュータウンの先導的なスマートシティ化の取り組みの発信に努めてきた。
- さらに今後は、大阪スマートシティ戦略 ver2.0 において、泉北ニュータウンを府内の地域課題解決のモデルとして取り組む「チャレンジフィールド」に位置づけ、ICT を活用した高齢者の生活支援をはじめとして、様々なプロジェクトについて、堺市と連携しながら積極的に取り組んでまいります。

(西林克敏議員)

ご答弁ありがとうございました。時代の変遷とともに泉北ニュータウンでは世代の新陳代謝が進むことなく、人口減少と高齢化が顕著な地域になってきました。

代表的な課題ですが、地形は起伏が多くあり、バス交通が充実してるとは言えない中で、近隣センターや医療センターの衰退もあり、このままでは買い物や病院へ行けなくなるといったようなことが区内各所でみられます。

こうした地域課題の解決のモデルとして取り組む「チャレンジフィールド」に泉北NTを位置付けて頂けるとのことですので、今、まさに積極姿勢の堺市と連携をしっかりと進めて頂きます様に要望を致します。

③ビッグバンの現状について

(西林克敏議員)

最後に、ビッグバンについて伺います。

ビッグバンは、児童に健全な遊びを提供し、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に大型児童館として平成11年に開館し、以来、約20年間にわたって府の施設として親しまれてきました。

今回、ビッグバン及びその後背地について、大阪府から堺市へ引き継がれました。府議会で議論してきました私としましては感無量なのですが、その経緯及び意義等について福祉部長にお伺いを致します。

(福祉部長答弁)

- ビッグバンについては、令和元年7月に、堺市から後背地とあわせ、無償譲渡等の申し出があり、市と協議を重ねた結果、令和3年4月1日に移管したところ。
- その後、堺市においては、無料エリアや新たな展示物の設置などのリニューアルを行い、4月29日開館の予定で準備を進めてこられたが、4月23日の緊急事態宣言により、開館が延期されたところ。
- 府としては、市が後背地に整備予定の公園とビッグバンを一体的に運営することにより、自然豊かな森や池を活かしながら子どもたちがより一層楽しめる施設として、子育て環境の更なる充実が図られるものと考えている。

(西林克敏議員)

パネル④ ビッグバンリーフレット



4

当初、移管に向けての協議は難航した経過が思い出されますが、永藤市長の誕生により様々、諸問題も解消でき、今回の移管が実現できたと思っています。

ビッグバンは、長年にわたり、いわゆる「こどもの城」として愛されてきました。地元の子供たちは必ず一度は行ったことのある施設です。

パネル⑤ 広報さかい5月号記事



出典：広報さかい5月号

5

住民に、より身近な基礎自治体である堺市へとバトンタッチされることにより、地

域にとってもより親しみやすい施設になるとともに、利用者にとっても今回、リニューアルが行われて施設内容が充実するなど、非常に良い形での引継ぎになったと確信しています。

今後、ビッグバン後背地も含めて、泉ヶ丘駅周辺は、隣接の近大病院の移転というビッグプロジェクトも併せて、堺市を中心にして地域のまちづくりがさらに進められると思います。

引き継がれはしましたが、ビッグバンが子どもたちに親しまれる施設であり続けられるようにご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、引き続き大阪府は元の開発者として泉ヶ丘地域の活性化に注力頂きますように要望を致しまして、私の一般質疑を終わります。ご清聴ありがとうございました。